2026年11月19日発行
■発行責任者／佐藤幸雄 ■編集・制作／(株)プロトリオス
■発行／(株)NGP 東京都港区港南2-12-32　サウスポート品川4F
TEL03(6705)1212

NIPPON GOOD PARTS NGP News 2026 11月号
全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報
No.428

## 世界初※ 自動車パーツリユースによるボランタリークレジット4,883t$CO_2$eを創出

# NGPの自動車リサイクルプロジェクトが切り拓く、脱炭素とサーキュラーエコノミーの相乗ソリューション

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（本部：東京都港区、理事長：小林信夫）の関連会社である(株)NGP（本社：東京都港区、代表取締役：佐藤幸雄）は、「自動車リサイクル部品活用による$CO_2$排出削減プロジェクト」において、第三者審査・検証を経て、世界初※となる「自動車パーツリユース」によるボランタリーカーボンクレジット（以下「ボランタリークレジット」）4,883t$CO_2$eを創出しました。本クレジットは、(株)Linkhola（本社：東京都港区、代表取締役：野村恭子）が運営する制度「EARTHSTORY」において、2026年9月17日に発行されました。

本プロジェクトは、2026年に正式策定された方法論「自動車パーツリサイクル」を適用した第1号プロジェクトです。自動車のリユース部品活用は、単なる「中古品の再利用」を超え、従来の再生可能エネルギーや省エネルギーの取り組みだけでは対応しきれない領域に、部品・素材の循環利用による「新品製造・輸送由来の排出削減」という形でアプローチする、サーキュラーエコノミー（循環型経済）との相乗ソリューションモデルです。本プロジェクトは日本発モデルとして、気候変動対策と資源循環社会の実現に同時に貢献する歴史的な第一歩となります。

### ■本プロジェクトの特徴と成果

#### 1. 世界初、リユース部品の$CO_2$削減効果を「環境価値」に転換

使用済み自動車の部品を再利用することで、新品部品に必要な資源採掘・精錬・加工・製造や輸送に伴う$CO_2$排出を回避できます。NGPは2013年から富山県立大学・明治大学との産学共同研究を進め、ライフサイクルアセスメント（LCA）を通じてリユース部品による$CO_2$削減効果を定量化してきました。

こうした研究成果をもとに、2022年からは、使用済み自動車の引き取りやリユース部品の活用による$CO_2$削減効果を数値で示す「環境貢献書」を、損害保険会社、自動車リース会社、自動車販売業者、自動車整備工場等の自動車関連事業者に提供してきました。これにより、各企業が自社の環境貢献を具体的な数値で把握し、カーボンニュートラルやSDGsへの取り組みとして社内外に発信できる仕組みを構築してきました。今回のカーボンクレジット創出は、これまで環境貢献書を通じて進めてきた「環境価値の見える化」をさらに発展させ、リユース部品の活用による$CO_2$削減効果を、第三者による審査・検証を経て、取引可能な環境価値として新たに創出したものです。長年にわたり蓄積してきた研究成果と実績データを基盤に、自動車リユース部品の環境価値を社会に広く活用していく新たな段階へと進みました。

#### 2. 全国のNGPネットワークを基盤に、環境価値創出を展開

対象部品は、全国のNGP組合員が「廃車王」を通じて一般カーオーナーから引き取った車両をはじめ、多様な使用済み自動車から生産されています。全国に広がる回収・部品生産ネットワークが、継続的な資源循環と$CO_2$削減の基盤を支えています。



カーボンクレジット発行証書授与式。左から、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 理事長 小林信夫、株式会社NGP 代表取締役 佐藤幸雄、株式会社Linkhola 代表取締役 野村恭子

また、あいおいニッセイ同和損害保険(株)（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：新納啓介）との全損車両回収に関する業務委託契約に基づき引き取った車両も、リユース部品の供給源の一つです。これらの車両から生産された対象部品も、本プロジェクトのクレジット創出対象に含まれています。

#### 3. 二段階の第三者審査と電子公証で、クレジットの信頼性を担保

EARTHSTORYでは、第三者による審査・検証と電子公証システム等を組み合わせ、算定・認証プロセスの透明性を確保しています。本プロジェクトは妥当性確認（2026年7月28日）、検証（同年8月20日）を経て、9月17日の4,883t$CO_2$e発行に至りました。循環型産業の環境価値を、企業が参照・活用できる形で制度化した成果です。

※自動車リサイクルにおける「部品リユース」を対象としたボランタリーカーボンクレジットの発行として世界初（Linkhola調べ、2026年10月Web調査）



自動車リサイクル部品 環境貢献書



EARTHSTORY カーボンクレジット発行証書



使用済み自動車からの部品回収・検査・再利用とクレジット創出の流れ

### 4. 脱炭素とサーキュラーエコノミーを同時に進める、日本発の新領域

脱炭素に向けては、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーに加え、製品・素材のつくり方と使い方を変える「サーキュラーエコノミー」、「資源循環活動」を促進することが、欠かせません。自動車パーツのリユースは、新品製造に伴う$CO_2$排出の回避と、金属・樹脂などの資源利用の効率化を同時に促す「動脈・静脈一体型」の取り組みです。本プロジェクトは、日常の資源循環活動に経済的な評価を与え、その拡大を後押しする新たな仕組みです。NGPは今回、2種類の自動車リユース部品を対象としたクレジット化に成功しました。今後は対象部品の種類と点数を段階的に拡大し、自動車リユース部品の環境価値創出をさらに加速させていきます。

### ■プロジェクト及び発行概要

**発行日：**2026年9月17日
**プロジェクト名：**自動車リサイクル部品活用による$CO_2$排出削減プロジェクト
**プロジェクト運営管理者：**株式会社NGP
**クレジット発行量：**4,883t$CO_2$e
**プロジェクト実施場所：**全国（日本）
**発行対象期間：**2023年6月24日～2026年6月30日
**発行基準：**EARTHSTORYボランタリークレジット制度
**審査・検証：**妥当性確認（2026年7月28日）、検証（同年8月20日）

### ■自動車リユース×脱炭素 ―日本発モデルの社会的意義と展望

サーキュラーエコノミーの推進に取り組む国際的な非営利団体、Ellen MacArthur Foundation（エレン・マッカーサー財団）によると、再生可能エネルギーへの転換や省エネルギーによる対策だけでは、世界の温室効果ガス排出量の約55%への対応にとどまり、残る約45%への対応には、製品・素材の生産・利用方法を見直すサーキュラーエコノミーへの移行が重要とされています。

日本においても、政府は循環経済への移行を国家戦略として位置付け、2026年4月に「循環経済行動計画」を決定するなど、資源循環を通じた産業競争力の強化と持続可能な経済成長に向けた取り組みを推進しています。こうした中、自動車リサイクル業界は、リユース部品の供給による資源の有効活用と$CO_2$排出削減に加え、豪雨や浸水などの自然災害時における車両の回収・適正処理など、平時・災害時を通じて資源循環を支える重要な役割を担っています。

NGPは、今回のクレジット創出を新たな出発点として、全国の組合員によるリユース部品の生産・流通ネットワークと、長年蓄積してきた実績データを活かし、対象部品の種類と点数を段階的に拡大するとともに、継続的なクレジット創出に取り組んでまいります。

さらに、創出したクレジットの活用を広げるため、自動車産業のサプライチェーンを構成するステークホルダーとの連携を深めるとともに、幅広い業種の企業・団体との協働を推進してまいります。リユース部品の活用による環境価値を自動車産業の枠を越えて社会に広げ、資源循環と脱炭素の両立を目指します。

また、(株)NGPおよびNGP組合員企業において炭素会計アドバイザー協会への入会ならびに「炭素会計アドバイザー資格」の取得を推進し、環境分野における人材育成に取り組むとともに、本活動を通じて、業種や業界の垣根を越えた幅広い企業・団体との連携を深めてまいります。

今後もNGPグループは、リユース部品の利用促進と新たな環境価値の創出・活用を通じて、企業・団体等のステークホルダーと多様な形で協働し、国が推進する循環経済への移行と、カーボンニュートラルの実現に貢献してまいります。

### ■クレジット情報の公開と今後の情報発信

本プロジェクトで創出したボランタリークレジットの情報は、EARTHSTORYのマッチングプラットフォームで公開されています。購入を検討される企業・団体の皆様は、以下のサイトから詳細をご確認いただけます。
EARTHSTORYマッチングプラットフォーム：https://match.earthstory.jp/



**代表メッセージ**

株式会社NGP
代表取締役
**佐藤幸雄**

この度、自動車リユース部品の活用による$CO_2$削減効果を、世界初となるカーボンクレジットとして創出できたことを、大変誇らしく思います。

今回の成果は、全国のNGP組合員が長年にわたり積み重ねてきたリサイクル事業の実績と、あいおいニッセイ同和損保様をはじめとする多くの取引先・パートナー企業の皆様との協働によって実現したものです。

これまでのリサイクル活動から新たな環境価値を創出できたことは、業界にとっても大きな意義があると考えています。今回のクレジット創出を新たな出発点として、今後は対象部品の拡大に加え、自動車産業の枠を越えた幅広い企業・団体との連携を深め、環境価値の創出と活用を推進してまいります。NGPはこれからも、全国の組合員とともに、自動車リサイクル業界の新たな可能性を切り拓き、資源循環と脱炭素を通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

## NGP協同組合、第22回通常総会を開催

# 40年で築き上げてきた歴史と信頼を礎に、これからも業界の発展と持続可能な社会の実現に貢献し続けていく




NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は10月26日、ヒルトン福岡シーホーク（福岡県福岡市）において、第22回通常総会を開催しました。

冒頭の挨拶で、小林信夫理事長はグループ時代から数えて創立40周年を迎えたことを報告するとともに、組合の発展に尽力してきた役員及び組合員、ご支援とご協力をいただいている関係者に対して感謝を示しました。そして、この40周年の節目に、世界で初めて自動車パーツリユースによるボランタリーカーボンクレジットを創出したことを報告し、「脱炭素社会の実現や地球環境への配慮がこれまで以上に求められる時代を迎える中、今回の成果は組合が長年培ってきた経験や技術、そして組合員をはじめ、多くの関係者の協力によって実現したものです。これは単なる一つの成果にとどまらず、これからの新しい時代に向けた大きな一歩であると考えております」と、その意義を強調しました。

そして、「40周年はひとつの到達点であると同時に、新たなスタートでもあります。これまで築き上げてきた歴史と信頼を礎とし、時代の変化に柔軟に対応するとともに、今回のカーボンボランタリークレジット化をはじめとする新たな取り組みにも積極的に挑戦し、不易流行、組合員にとってより一層有意義な組合となるよう努めてまいります。これから50周年、さらにはその先の未来へ向けて、力を合わせ、業界の発展と持続可能な社会の実現に貢献してまいります」と、今後のさらなる組合の発展に向けた決意を力強く表明しました。

### 支部・組合員の優れた取り組みを表彰

NGPでは、商品品質向上への意識をさらに高めるため各種表彰制度を設けており、この度の総会にて、支部及び組合員の取り組みを讃える表彰式を執り行いました。

各賞を受賞した支部・組合員は次の通りです。

**<低クレーム発生率>**

**■支部表彰**

中四国支部

**■優秀発送点数部門**（グループ平均よりも発送点数が多い組合員が対象）

1位：(株)福山セコ、2位：(株)永田プロダクツ、3位：(株)辻商会、4位：岡崎車輌部品(株)、5位：クレストパーツ

**■堅実発送点数部門**（グループ平均よりも発送点数が少ない組合員が対象）

1位：(有)オートパーツ新居浜、2位：(有)島根オートリサイクルセンター、3位：(株)エコパーツ京都、4位：(有)プロス、5位：(有)みうら

**<生産・販売貢献度>**

**■生産部門**

1位：(株)空知オートパーツ、2位：オレンジパーツ平成、3位：(株)辻商会、4位：(株)ハセ川自動車、5位：WARC西日本オートリサイクル(株)

**■販売部門**

1位：(有)リサイクルガレージケーワン、2位：(有)名古屋解体メイカイパーツ、3位：(株)カーグリーコマゼン、4位：(株)ハセ川自動車、5位：(株)CRS埼玉



表彰式の様子

## NGP 今月の$CO_2$削減量

**リサイクル部品利用に伴う$CO_2$削減量**

令和8年9月：**1,853t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。

**リターナブル梱包材利用に伴う$CO_2$削減量**

令和8年9月：**0.3t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO2排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員かわら版

NGP、第22回香川県豊島環境保全・再生活動を実施

## NGPが2022年に植樹したオリーブの木から、初めて実が収穫される

NGP協同組合は10月13・14日の2日間、香川県豊島で環境保全・再生活動を行いました。第22回目となる今回は、NPO法人瀬戸内オリーブ基金が推進する「ゆたかなふるさと100年プロジェクト」の一環として、大雨や高潮の影響を受けたオリーブ園周辺の復旧整備と、オリーブの収穫・選果作業に取り組みました。また、初参加のメンバー3人を対象として、「豊島事件」と本活動の意義について理解を深めてもらうための見学会を実施しました。

NGPは、豊島の失われた自然を取り戻し、次世代へ引き継いでいきたいとの想いから、2019年に「柚の浜」の荒廃地の整備を開始しました。2022年3月には、オリーブオイルの販売収益を瀬戸内オリーブ基金の活動資金に役立てることを目指し、同地に16本の苗木を植樹しました。その後も水やりや除草、防獣柵の設置などを重ね、大切に成長を見守ってきました。今回、NGPが植樹したオリーブの木から、初めて実を収穫することができました。荒廃地の整備から始まり、長年にわたって積み重ねてきた取り組みが実を結んだことを実感しながら、参加者は大きく育った実を一粒ずつていねいに摘み取りました。

今回の活動では、大雨や高潮による自然環境への影響や、オリーブの栽培・収穫における課題に触れ、豊島の自然環境を守り続けることの大切さを改めて実感しました。自然環境の保全・再生には、日々の地道な管理に加え、被害が生じた際の適切な復旧や、継続的な取り組みが欠かせません。NGPは今後も瀬戸内オリーブ基金と協力し、豊島の自然環境の保全・再生に取り組むとともに、「豊島事件」の教訓と環境保全の大切さを次世代へ伝える活動を続けてまいります。



NGP、瀬戸内オリーブ基金へ寄付金目録を贈呈

## 豊島の環境保全・再生活動を支援

NGP協同組合と(株)NGPは10月26日、瀬戸内オリーブ基金に対し、寄付金目録を贈呈しました。NGPグループによる瀬戸内オリーブ基金への寄付は、昨年に引き続き8回目となります。

贈呈式には、瀬戸内オリーブ基金の岩城裕理事長、NGP協同組合の小林信夫理事長、サステナブル総務委員会・杉之間大和担当副理事長、岸本恭秀委員長、(株)NGPの佐藤幸雄社長が出席しました。

瀬戸内オリーブ基金は、産業廃棄物の不法投棄事件「豊島事件」をきっかけに設立されたNPO法人で、豊島をはじめとした瀬戸内海エリアの自然環境を守り、再生することを目的に活動をしています。NGPは2019年に宣言したSDGsへ向けた取り組みの一環として、使用済み自動車買い取りサービス「廃車王」で引き取った車両台数に応じた寄付金、「廃車王」全加盟店に設置する募金箱で集めた募金、NGPで販売するリユース部品の利用による$CO_2$削減量に応じた寄付金を毎年オリーブ基金へ贈呈しています。

これまでNGPからの寄付金は、豊島事件の歴史を伝える「豊島のこころ資料館」の外壁補修、電気配線の引き直し、屋根の補修などに活用されてきました。NGPは今後もオリーブ基金の活動を支援し、豊島の環境保全・再生と「豊島事件」を風化させず後世に伝えるための環境教育に協力してまいります。



NPO法人瀬戸内オリーブ基金・岩城裕理事長（中央）とNGP協同組合の小林信夫理事長（右から2人目）、サステナブル総務委員会・杉之間大和担当副理事長（右端）、岸本恭秀委員長（左端）、(株)NGPの佐藤幸雄社長

**組合員情報変更**

| 支部 | 会社名 | 変更内容 | 変更後 | 変更日 |
|---|---|---|---|---|
| 東北 | 株式会社エコブリッジ | 会社代表 | 代表取締役　中里 太明 | 2026年10月1日 |


**NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局**
〒108-0075　東京都港区港南2-12-32　サウスポート品川4Ｆ
TEL:03-6705-1208　FAX:03-6705-1209
https://www.ngp.gr.jp/

**株式会社NGP**
〒108-0075　東京都港区港南2-12-32　サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212　FAX:03-6705-1201
https://www.ngp.co.jp/